

所 信

<はじめに>

1963年4月10日、明るい豊かな社会を築き上げようとする56名の志高き青年たちによって当青年会議所は設立されました。地域社会の発展に寄与せんとするその尊い思いが織りなす運動は脈々と受け継がれ、本年、設立から57年目を迎えます。これまで歴史を紡いでくださった先輩諸兄、そして地域の皆様に敬意を表するとともに、心より感謝申し上げます。地域に必要とされる団体としてこの運動を決して絶やすことなく、地域の皆様と手を携え、協働することで明るい豊かな社会の実現に向けて尽力していく所存です。

我々は青年会議所に所属し、明るい豊かなまちを目指して運動を展開しています。一番の夢は誰かが困ったときには助け合い、誰かに起こった良いことは自分のことのように喜ぶことができる海部津島地域を創ることです。そんなまちになるためには、より良い未来を目指して自ら行動を起こすことができる人財を育成することが必要だと考えます。会員拡大、まちづくり、青少年の育成、会員の資質向上の観点から、誰もが夢を描けるまち、海部津島を目指してまいります。

夢をカタチに ～行動しよう、海部津島のために～

<同じ夢を抱く同志を増やす>

一昨年、創立55周年を迎えた際、当青年会議所は近5ヶ年を見据えた活動指針を発表しました。活動指針にもある通り、今地域から必要とされる一般社団法人海部津島青年会議所が60周年を見据えて全力で取り組むべきことの一つは会員数の拡大です。一時は100名以上のメンバー数を誇った当青年会議所も現在半数以下となり、同じ目標に向かって歩みを共にする同志が減少しています。我々はこの現状を打破すべく、拡大運動を推し進めてまいりましたが、未だ会員減少の連鎖を断ち切れずにいます。しかし、今年何としてもこの連鎖を断ち切り、海部津島青年会議所の変革期となる大きな一歩を進めたいのです。メンバー数の減少は活動予算の縮小と、それに伴う事業規模の縮小につながります。まずこの現状を全員が自分事として捉えなければなりません。より良い海部津島の未来を創るためには市民意識変革運動を起こすことのできる青年会議所が必要です。まだ見ぬ同志に、青年会議所だからこそ感じられる魅力を伝え迎え入れる。源流と支流が重なりやがて大河を成すが如く、途切れることのない力強い拡大運動をしていかなければなりません。そのために今一度、会員拡大についての仕組みを再構築することが必要です。海部津島青年会議所の門を叩く同志の意欲を高め、青年会議所メンバーと共に行動する仕組みを構築し、海部津島地域の未来を牽引していくことのできる人財を育成してまいります。

<次代へつながる郷土愛を育む>

私たちは、自分たちの住み暮らすこのまちが好きでしょうか。
「たまたまここに住むことになった。たまたまここに生まれた。でもきつとどこに生まれても同じだったろう。むしろそんなことは考えたことがない。」
そうした感覚は残念でなりません。将来の人口減少が心配されるいま、このまちが在るといふことそのものが危ぶまれています。

「このまちで育ってよかった。このまちで子どもを育てたい。このまちのためになにかをしたい。」

そんな市民を増やすこと。血の滲むような努力をされた先人たちへ敬意を払い、感謝を示し、故郷への想いを次代につなぐ。そのためにすべきことはどんなことなのか。それは決して特別なことではありません。意識すべきは、当たり前のように感じているが変化し続ける毎日の風景、子どもころ繰り返し遊んだ記憶など、様々な思い出の中にある故郷に着目するということです。過去の積み重ねが現在を創るのなら、未来は現在に必ずつながっている。良き思い出の積み重ねが故郷と共にあること、それが現在につながり、この地域への愛情を育んでいくのです。深く長く残る故郷の思い出を積み重ねることで愛情を育み、まちのために動くことのできる人が増え、その想いが次代に継承されると確信し、活動してまいります。

<主体性ある青少年の育成>

現在、私たちの身近にはインターネットがあり、たくさんの情報を得ることができるようになりました。何かを購入する際には事前に動画サイトで使い勝手を確認し、その上で購入するという子どもも多くなっています。情報量が増え、その質も向上し子どもの知識量も多くなった反面、実体験の中で悩み考え、挑戦するという機会が少なくなりました。実体験から感触や匂い、臨場感、成功の喜び、失敗の悔しさといった感情など、感性を豊かにする機会も減っています。この現状が子どもの主体性を奪ってしまい、結果の想像ができない、成功しないことには手を出さず、自ら挑戦することや、つかみ取るための行動に踏み切ることができないまま成長してしまう子どもを育てているのではないのでしょうか。私たちは大人として、子どもが様々な体験の中で葛藤し、自ら克服するまで試行錯誤することを見守り、子どもが何を感じているのか、どういう気持ちなのかに耳を傾ける姿勢が必要であると考えます。本来、青少年期は成功や失敗の経験を重ねる時期です。実体験から感性を磨き、自らの経験から目標に向かって意欲をもつことが成長のために必要です。目標、ひいては夢に向かい自ら行動できる、チャレンジ精神溢れる青少年の育成が、我々の責務であると考えます。

<海部津島ブランドの構築>

海部津島青年会議所は設立から57年、連綿と受け継がれ、地域に輝くブランドとして存在してきました。情報発信の手段が限られていた時代から環境は変化し、その手段は数えきれないほど増えました。情報が氾濫していると言われる時代ですが、裏を返すと発信の仕方について学び考えることで、我々が行う運動が効果的に市民に伝わり、市民意識を変革させる速度を上げることができると考えます。そして効果的な運動発信のためには、青年会議所メンバーとしても社会人としても自らを顧み、行動や発言、立ち居振る舞いまで意識を高める必要があります。

さらに会員としての資質を高めるには今後の社会情勢の変化に敏感にアンテナを張り、社業・家庭との絶妙なバランスと共に、自分事としてものごとを捉える当事者意識が必要です。それは、我々の活動を通して与えられる修練、青年会議所のもつ多くのつながりや、敬愛する諸先輩方から学びとることが出来ます。様々な学びを通して磨き抜かれたJAYCEEで組織される我々海部津島青年会議所が地域のブランドとなるよう会員資質の向上に努めてまいります。

<おわりに>

海部津島地域の未来をより良くするためにはその想いを地域に伝播させ、共に行動できる仲間を増やすことが必要です。会員拡大も、まちづくりも、青少年育成も、会員の資質向上も、すべてが密接につながっています。私たちの地域に対する想いを結集し、夢の実現に向けて力強く前進することで明るい未来は現実になります。夢をカタチに。行動しよう海部津島のために。

基本方針

<同じ夢を抱く同志を増やす>

まだ見ぬ同志に、青年会議所だからこそ感じられる魅力を伝え、LOMをあげて全力で会員拡大に取り組んでまいります。また、青年会議所メンバーと共に行動する仕組みにより、自ら行動し、未来を牽引することのできるメンバーを育成してまいります。

<次代へつながる郷土愛を育む>

このまちでの思い出を重ね、郷土愛へと昇華させていくことで先人に敬意を払い、感謝を示し、このまちの為に動くことのできる人を増やすために活動してまいります。

<主体性ある青少年の育成>

実体験により感性を磨き、自ら夢に向かって行動できるチャレンジ精神溢れる青少年を育成してまいります。

<海部津島ブランドの構築>

効果的な運動発信を学ぶことで海部津島青年会議所としてのブランドを構築してまいります。また、当事者意識をもち、社業、家庭、J Cのバランスをとることのできる人財となるよう資質を高めてまいります。